

学校名：春日部市立幸松小学校



氏名：内田 美希

EL SALVADOR

〔担当教科：全教科〕

- 実践教科等：総合的な学習の時間・家庭科・道徳
- 時間数：8時間
- 対象生徒：小学校6年生／4年生
- 対象人数：29人（6年・本学級）／41人（4年）

〔1〕単元名

笑顔と共に、世界と共に

〔2〕単元の目的/目標（ESDの能力・態度）

- ・エルサルバドルについての学習を通して、異文化への興味・関心を持ち、世界に目を向けて物事を考える力を育てる。（多面的、総合的な思考力）
- ・エルサルバドルが抱える問題について理解し、一人一人が解決に向けた方策を考えると共に、自分自身と向き合う。（自己の生き方の追究）
- ・日本とエルサルバドルの両国と向き合うことを通して、互いの意見を尊重し合い、自分の思いを伝える力を養う。（コミュニケーション能力）

〔3〕ESD（持続可能な社会づくり）の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

- ・エルサルバドルと日本の文化、産業、地理的・歴史的背景等の相違点に気づく。【多様性】
- ・エルサルバドルと日本との関係を通じて、世界と自分とのつながりに気づき、共生の大切さを学ぶ。【連携性】
- ・エルサルバドルの問題に向き合い、今の自分にできることを一人一人考える。【責任性】

〔4〕単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1 四年生実践	【エルサルバドルとは…】 ＜総合的な学習の時間＞ ○世界に目を向け、エルサルバドルについて知る。 ○フォトランゲージを通して、エルサルバドルと日本の共通点、相違点に気づく。（多様性）	※4年生を対象に、4年担任が授業実践を行う。 ・エルサルバドルについて写真を見たり、話を聞いたりして日本との違いを知る。 ・4枚の異なる写真（何れも人の表情と特徴的な背景が分かるもの）を通して、気づいた点を話し合う。	・民族衣装 ・教科書 ・遊具 ・藍染めした布 ・写真（エルサルバドル紹介用） ・写真（フォトランゲージ用）	◇世界の多様性に気づく。 ◇エルサルバドルと日本の共通点及び相違点について理解する。（多面的、総合的な思考力）
2	【エルサルバドルってどんな国？】 ＜総合的な学習の時間＞ ○「私のおすすめの国」を紹介する。 ○世界に目を向け、エルサルバドルについて知る。	※1時限目に4年生に実践した内容と同様の内容（前半）をより詳しく実施。 ・自分が調べた「おすすめの本国」を紹介し、途上国に目を向ける。 ・写真を見たり、話を聞いたりして、エルサルバドルを知る。	・民族衣装 ・教科書 ・遊具 ・藍染めした布 ・写真 ・世界地図 ・おすすめの本国紹介カード	◇世界の多様性に気づく。（多面的、総合的な思考力）
3	【エルサルバドルで活躍する日本人】 ＜総合的な学習の時間＞ ○青年海外協力隊の4人の活動を知る。	・エルサルバドルで活躍する青年海外協力隊員を紹介し、エルサルバドルを見つめ直す。	・青年海外協力隊員の写真	◇エルサルバドルとの関係を通じて、世界と自分とのつながりに気づく。

				く。（連携性）
4 5	【エルサルバドルの伝統料理を作ろう】<家庭科> ○エルサルバドルの伝統料理である「ププサ」を作り、異文化体験を行う。	・「ププサ」を実際に作り、味わうことで、エルサルバドルの食文化に触れる。	・ププサ材料（現地で購入したとうもろこしの粉、チーズ）	◇伝統料理に興味・関心をもち意欲的に取り組んでいる。（行動観察）
6	【エルサルバドルと日本のつながり】 <総合的な学習の時間> ○フォトランゲージを通して、エルサルバドルと日本の共通点・相違点、問題に気づく。	※1時限目に使用した写真4枚を使用する。 ・4枚の写真をもとに、グループごとにフォトランゲージを行い、感じたことを交流し合う。	・写真（フォトランゲージ用×4枚）	◇互いの意見を尊重し合い自分の思いを伝える力を養う。（コミュニケーション能力）
7	【世界がもし100人の村だったら】<道徳> ○世界を体験的に知り、「共生」について考える。	※以下の3つのワークショップを実践した。 ・世界の言葉で「こんにちは」 ・文字が読めないということ ・世界の富は誰が持っているの ・「100人村」を読み、交流する	・100人村カードセット ・ペットボトル×3	◇世界が抱える問題を知り、自己の生き方と向き合う。（自己の生き方の追究）
8	【6年2組でエルサルバドルへ…】 <総合的な学習の時間> ○エルサルバドルの問題を考えながら、自分自身と向き合い、今の自分にできることを考える。	・1枚の写真と向き合う。 ・「もしも明日エルサルバドルに行くとしたら」という課題で、共生の大切さを考えると共に、一人一人が今の自分にできることを考える。	・自由に書き込める1枚の紙 ・ワークシート ・写真	◇世界と自分とのつながりに気づき、共生の大切さを学ぶ。（連携性） ◇今の自分にできることを一人一人考える。（責任性）

【5】授業の詳細

1 時限目：【エルサルバドルとは…】

※1時限目の授業は、4年生の児童を対象に実践した。本学級だけでなく、他学年の児童にもエルサルバドルを知ってもらいと考え、1時間の中に重点を絞り授業を行った。

《①世界に目を向け、エルサルバドルについて知る》

「エルサルバドル」という国を、ほとんどの児童が把握していない。故に、興味をもって学習活動に参加できるように、エルサルバドルで購入した民族衣装や教科書、おもちゃや民芸品を紹介しながら活動を行った。その後、エルサルバドルの位置、言語、平均気温、主要産業、日本との時差、面積、人口について、現地の写真を提示しながらエルサルバドルの概要を理解した。

《②フォトランゲージを通して、エルサルバドルと日本の共通点、相違点に気づく》

4枚の異なる写真を、グループごとに1枚ずつ提示した。児童は、自分たちのグループに配られた1枚の写真だけを見て、気づいたことや感じたことを付箋に書き留めていった。その後、グループごとに全体発表を行った。

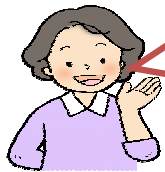


ココがポイント！

- ◎4枚の写真は、①生活環境②人の表情が分かるものを選んだ。
- ◎児童には、自分のグループの写真だけを見るように声かけを行った。
- ◎付箋に書くことに「間違い」はないということを確認する。

4年生への実践





エルサルバドルの人々は幸せ
だと思う？

お金はないけれど、その中にも笑顔
も幸せもある気がするな。



2 時限目：【エルサルバドルってどんな国？】

2時限目実践前に、児童と共に「私のおすすめの国を調べよう」という活動を行った。児童が調べた国は、フランスやイタリア、オーストラリアやアメリカ等の先進国が中心となっていた。中には、歴史的建造物に興味を示しエジプトやカンボジア等を調べた児童も数名いた。その後、世界地図を拡大したものに児童が調べた「おすすめカード」を各々の国の位置に掲示した。児童は世界地図を見て、自分たちには知らない国が沢山あり、特にアジア、南アメリカ、アフリカ等が触れられていないことに気づいた。そこで、エルサルバドルについて考えるきっかけとなり、1時限目に4年生を対象に実践したエルサルバドル紹介を写真と共にに行った。 <児童が調べた「おすすめの国カード」⇒>



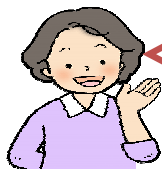
ココがポイント！

◎児童が調べる「おすすめの国」は先進国が多いことが予想される。そのため、世界地図に表すことで途上国への興味関心が高められた。

(「私のおすすめの国」紹介カード<上写真>)

3 時限目：【エルサルバドルで活躍する日本人】

エルサルバドルで活躍する4人のJICAボランティアを紹介した。青年海外協力隊の遠藤隊員(理学療法士)、原隊員(村落開発普及員)、伊藤隊員(小学校教諭)、そして石橋シニア海外ボランティア(工作機械)である。児童が身近に感じられる活動を紹介すると共に、エルサルバドルでの課題について児童自ら考える機会となった。



エルサルバドルで活躍する4人の日本人に出逢いました。どうして日本人がエルサルバドルで活躍しているのだろう？
4人のお仕事を紹介してみるよ。
エルサルバドルの抱える問題も発見できるといいですね。



(遠藤隊員)

日本のように、専門的な医者がいたらいいのにな。常に病気と隣り合わせなんだ…。



(原隊員)

山があったり、地震があったり、エルサルバドルと日本の地形は似ているんだな。一人一人の命を大切にしてほしいな。



(伊藤隊員)

学校を卒業したらアメリカに行ってしまうのは寂しいな。お菓子ばかりの生活…健康を考えた食事をした方がいいのに…。



(石橋シニア)

勉強したい気持ちがあるのに学校に行くことができないのは可哀想。エルサルバドルで活躍する日本人がいなくなったら、どうなってしまうんだろう…。



ココがポイント！

◎4人の日本人の活動を紹介し、エルサルバドルが直面している問題について、児童自ら考えさせるようにした。日本とエルサルバドルの共通点や相違点を見つけ、両国を照らし合わせながら考えていた。

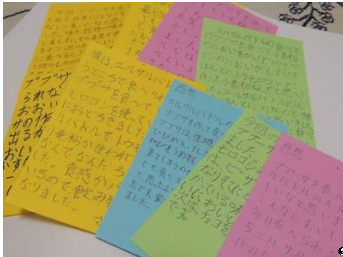
4、5 時限目：【エルサルバドルの伝統料理を作ろう】

児童は、写真でのエルサルバドル紹介で「食文化」にも注目していた。日本では小麦粉を使用することが一般的であるため、「とうもろこし粉」を原料とすることにとても驚いていた。



ココがポイント！

- ◎なぜ小麦ではなく、「とうもろこし」なのか。エルサルバドルの環境や主要生産物についても事前に着目させておくにより理解が深まる。
- ◎より「とうもろこし粉」を体験するために、中に詰める具はチーズに限定した。



- ・ププサを食べてエルサルバドルの人は羨ましい。
- ・粉にとうもろこしを使うとは驚き。
- ・日本にはない独特なおい。
- ・とうもろこしをそのまま食べた方がおいしいな…
- ・自分たちがププサを初めて食べたように、ポップコーンにする食べ方を伝えてみたいな。

(ププサ作りを体験した感想く上写真>)

6 時限目：【エルサルバドルと日本のつながり】

※1 時限目に実践した授業(後半)と同様。



ココがポイント！

- ◎フォトランゲージでの目的は、児童を「困惑させること」である。同じ国でも格差が大きく、エルサルバドルとはどんな国なのかを考えさせるきっかけとする。
- ◎全体でフォトランゲージを交流する際、上記の写真を左から順に提示した。左の2枚は経済的格差が分かる写真、右の2枚は生活環境と人の表情に着目した写真を選んだ。



- ・マクドナルドがあるよ！
- ・たくさん看板があるね。車も走っているよ。
- ・にぎやかな街だ。
- ・日本みたいだ。



(子どもたちの日記より)

今日は、エルサルバドルの写真を見て気づいたことや感じたことをみんなで話し合いました。私が見ていた写真は、たくさんの看板があったり、車が走ったりしていたので日本と変わらないのかなと思っていました。

しかし、他のグループの写真を見たらごみだらけの街が広がっていました。エルサルバドルが一体どんな国なのか分からなくなっていました…。また、日本はごみもなくて綺麗だけれど、「平和な国」と言えるのかな…。

- ・ごみがいっぱいだ。
- ・子どものお腹が出ているのはなぜ？
- ・みんな笑っている。
- ・電気は通っているのかな。
- ・目がキラキラ。

国語の教材文「平和のとりでを築く」を思い浮かべながら考えていた児童が多かった。

7 時限目：【世界がもし100人の村だったら】

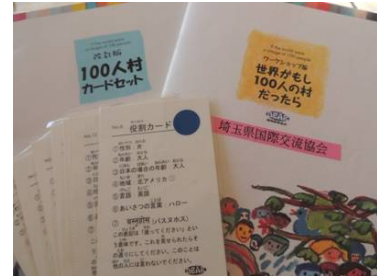
学校の土曜公開に合わせて、道徳の資料を使い、体験型の授業実践を行った。児童にとって、「平和な国もあるが、そうでない国もある」という認識はあるものの、それらが一体どんな影響を及ぼしているのかを理解することは難しいと考えた。また、世界から見た日本の位置を知る機会として、ワークショップを実践した。

(以下、「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」(DEAR 開発教育協会)参照)

《①世界の言葉で「こんにちは」》



- ☆あいさつが伝わった児童
 - ・仲間がいるという気持ちで嬉しかった。
 - ・あいさつが伝わって安心した。
- ☆あいさつが伝わらなかった児童
 - ・誰とも一緒になれなくてずっと不安…
 - ・こんなに伝わらない国があるなんて驚いた。



《②文字が読めないということ》

- ・文字が読めることがこんなにすごいことだと思わなかった。
- ・文字が読めないと買い物もできない。生活がどんどん不便になってしまう。



《③世界の富は誰がもっているの？》

- ・日本は人数が少ないのにこんなに水をもらえるなんて…
- ・水が平等に分けられないから、発展途上国の人々は生活が苦しくなっていくよ。

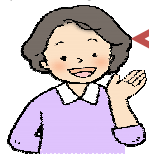
ココがポイント！

◎ワークショップを行った後に、「エルサルバドルは何色に入ると思うか」と尋ねると、「赤(貧しい)と黄(中間層)の間なのではないか」という児童の声が集中した。前時でフォトランゲージを行い、貧しい一面と豊かな一面を見ているからであると考えられる。

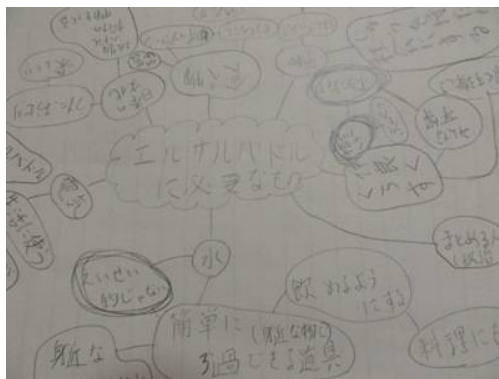
また、「黄に近い赤」と答えた児童もあり、「先進国を目指して頑張っているエルサルバドルの人もあるから」と理由を述べていた。

8 時限目：【6年2組でエルサルバドルへ…】

エルサルバドルと日本を考えながら、本時では自分の生き方、そして今の自分にできることを追究していく。大切なことは、「今の自分」であることだ。3時限目に、エルサルバドルで活躍する日本人を紹介したり、第一に私自身が教材となって現地に赴き経験したりしたことを通して、小学校を巣立ち世界への視野が広がる子どもたちに将来への手助けとなればという願いをもとに実践した。また、今の自分自身とこれからの自分の生き方・在り方を見つめ直す機会としてこの時間を最終目標として設定した。



もしも明日、みんなでエルサルバドルに行くとしたらどんなことができると思いますか？大人になった時の自分でもなくて、20歳になった頃の自分でもなく、「今の自分」です。
(1枚の白紙を配布)この紙は自由に使ってみてください。



「エルサルバドルに必要なもの」を中心に考えて、今の自分にできることを探してみたらどうかな。



- ・衛生面の確保や電気を通すことも必要…けれど、今の自分たちにはできないな。
- ・銃を持つことが危ないことだって伝えたい。文字が読めない人もいるから看板で絵に描いて表示するのはどうかな。
- ・きれいな水が飲めるように理科で学習した簡単な過装置を作るのはどうかな。
- ・ププサそのものも美味しかったけれど、とうもろこしが有名だからポップコーンの作り方を伝えてみたいな。
- ・エルサルバドルの文化も知ることができたから、日本の文化も伝えたい。折り紙なら1枚の紙があればできるね。
- ・日本の避難訓練を全員で見せてあげたら分かりやすいと思う。(一部抜粋)

ココがポイント！

- ◎ 本時の冒頭の説明の際、右の女の子の写真も提示した。豊かなのか、貧しいのか、幸せなのか、不幸なのか…表情や背景から様々なことが読み取れる写真である。
- ◎ 一人一人自分にできることを、エルサルバドルの地図の周りに貼っていった。



(子どもたちの「できること」が書かれたもの)

〔6〕児童・生徒の反応/変化

「先生、どこの国に行ってきたの？」と帰国後子どもたちに聞かれた日。日本から一歩飛び出た世界を知りたいと、話を聞くことをとても楽しみにしていた子どもたちの瞳を覚えている。「エルサルバドルはどこにあるのかな？」、「どんな国なのかな？」、「どんな人が住んでいるのかな？」…素朴な疑問から始まった授業実践であったが、今の子どもたちは違う。「世界には、自分たちが知らない国がまだまだ存在する」、「地球の裏側で頑張っている子や、活躍している日本人がいる」。そして、「これからの自分の生き方を考えていきたい」という声も。エルサルバドルと日本のつながりを知ることで、世界と結ばれていることや自分を見つめ直すこと、家族・仲間の大切さや学べることの感謝等たくさんのことを考えると共に、幼い少女の笑顔に秘められている国の課題や日本の立場を深く考えらえたのではないかなと思う。また、普段とは異なる児童の姿も見られた。懸命に、そして真剣に悩んで迷い考える姿は、エルサルバドルで生きる子どもたちの輝く瞳にも負けないキラキラした瞳を見せた子どもたち。子どもたちの心の中にエルサルバドルという国はずっと残っているのではないかなと感じた。

〔7〕授業実践の成果と課題

《成果》 エルサルバドルを通して、子どもたちが普段とは違った角度で物事を考えられるきっかけになったことは、大きな成果と考える。実践の中で、たくさん悩んで、たくさん迷ってほしいという願いから、考える時間を毎時間多く確保した。そのため、活動が難しく感じた児童もいたが、子どもたち自身で「イメージマップを書いてみよう」、「今の自分には、これならできる」と自発的に考えることで、子どもたちの自信にもつながったのではないかなと感じた。また、土曜学習公開日に授業を実践したこともあり、保護者の方からも「国際的な視野が広がり、世界について考えるきっかけとなった」という感想をいただいた。自分の学年だけでなく、他の学年でも実践していただき、少しでも多くの方々にエルサルバドルの経験が伝わったのではないかなと考える。

《課題》 子どもたちは、「私のおすすめの国」を調べる時間は設定されていたが、エルサルバドルについての調べ学習の時間を十分に確保することができなかった。

〔8〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・『開発教育—持続可能な世界のために』 田中治彦、株式会社学文社、2008 年
- ・「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」 開発教育協会、2003 年

〔9〕使用教材(写真／図などの実物)

- ・本文中に主なものを掲載

〔10〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

「私自身が教材となる」ことを目標に、実践報告を進めてきた。しかし、実際は、子どもたちの関心や、他の国々に対する意識、自分自身を見つめ直すという気持ちによって成立していたのではないかと振り返る。エルサルバドルの子どもたちを見て、「瞳がキラキラしている」と感じたが、日本の子どもたちも同じであった。「学びたい、知りたい」という気持ちを常に持ち、輝く瞳で真っ直ぐ前を向いていた。そんな子どもたちと向き合える時間を大切に、今後も学び続ける教師でありたいと思った。